C09 鹿児島県始良町で整備中の公園におけるタテツツガムシ分布調査○野田伸一¹, 山本進² (¹鹿児島大学・多島圏研究センター, ²鹿児島大学・医学部・衛生学)Occurrence of *Leptotrombidium scutellare* larvae around building park in Aira Town, Kagoshima Prefecture

Noda, S., Yamamoto, S.

ツツガムシ調査を続けている鹿児島県始良町の調査地では、患者発生の報告があり、蛍光抗体法によるタテツツガムシのツツガムシ病リケッチアの保有が確認されている。この調査地では昨年度から公園としての整備が進められている。公園には銘水として知られる“布引の滝”と歴史上重要な街道として歴史国道に指定されている“白銀坂”がある。今後、訪問者が増えることが予想され、ツツガムシ病の患者発生が懸念されることから、公園整備地および周辺地域でタテツツガムシの分布調査を行った。滝から流れる川と溜池に沿った11地点と白銀坂の9地点で、黒布2枚を用いて5分間の採集を行った。調査した20地点の全てでタテツツガムシが採集され、採集個体数は11-1,096匹で、14カ所で100匹以上、2カ所で1,000匹以上が採集された。PCR法によるツツガムシ病リケッチアDNA検出結果も報告する。

C10 マウスにおけるIgE誘導に関与するネッタイタマニクダニ (*Blomia tropicalis*) アレルゲンの解析○武田富美子¹, 新川武², 松岡裕之³, 石井明³, 佐藤良也¹ (¹琉球大学医学部寄生虫学講座, ²琉球大学遺伝子センター分子感染防御分野, ³自治医科大学医動物学教室)Studies on *Blomia tropicalis* allergens potential to IgE production in mice

Takeda, F., Arakawa, T., Matsuoka, H., Ishii, A., Sato, Y.

熱帯・亜熱帯地方では、ダニに起因するアレルギー疾患発症の原因となる吸入抗原として、ヒョウヒダニと並んでネッタイタマニクダニが重要と考えられている。著者らは、ネッタイタマニクダニの粗抗原をBALB/cマウスにコレラトキシンとともに鼻腔内投与すると、顕著なIgE産生が認められることを前回報告した。今回はその血清を用いてネッタイタマニクダニのアレルゲン解析をウエスタンブロット法により行ったので、結果を報告する。誘導されたIgE抗体が認識する抗原は主に75kD付近に認められ、ヒョウヒダニ属で報告されている主要なアレルゲンに比べて大きな分子量をもつことが示された。またこのアレルゲンのIgE認識エピトープはコナヒョウヒダニ、及び同じく吸入抗原として重視されている3種のユスリカアレルゲンと交差反応を認めなかった。今後、当該アレルゲンを精製し、アレルギー患者への皮内反応抗原としての検討を進める予定である。